

2016年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況

当連結会計年度（自 2015年4月1日 至 2016年3月31日）（単位：億円）

	2015年度 (第11期) A	2014年度 (第10期) B	増減		2016年度 (第12期) 計画 ^{※2}
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	13,003	9,381	(3,621)	(138.6)	9,892
高速道路事業	12,497	8,910	(3,586)	(140.3)	9,191
(料金収入)	6,575	6,339	(236)	(103.7)	6,504
(道路資産完成高等)	5,921	2,571	(3,350)	(230.3)	2,688
関連事業	506	471	(34)	(107.3)	701
(休憩所事業)	316	313	(2)	(100.9)	321
(その他)	189	157	(31)	(120.2)	380
営業費用	12,910	9,338	(3,571)	(138.2)	9,857
高速道路事業	12,464	8,931	(3,533)	(139.6)	9,181
(道路資産賃借料)	4,795	4,618	(176)	(103.8)	4,522
(道路資産完成原価)	^{※3} 5,953	^{※3} 2,594	(3,358)	(229.4)	2,688
(管理費用等)	1,715	1,717	(▲1)	(99.9)	1,972
関連事業	446	408	(38)	(109.4)	676
(休憩所事業)	263	261	(2)	(100.8)	290
(その他)	183	147	(36)	(124.6)	386
営業利益	92	43	(49)	(215.5)	34
高速道路事業	33	▲20	(53)	(-)	10
関連事業	59	63	(▲3)	(94.3)	25
経常利益	118	70	(48)	(168.7)	29
当期純利益^{※1}	79	43	(35)	(180.1)	19

実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※1 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しております。

※2 2016年度計画は、2016年6月8日付けで国土交通大臣から認可された「平成28事業年度 事業計画（変更）」を前提としております。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

※3 2015年度及び2014年度の高速道路事業営業費用（道路資産完成原価）には、高速道路に係る利益剰余金を活用して実施した事業（約40億円）が含まれています。

（注）当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、不動産開発事業 等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○安全性向上3カ年計画

道路上に設置された構造物（トンネル天井板や換気ダクト等の重量構造物など）の撤去・移設又は二重の安全対策、コンクリート剥落対策（橋梁、トンネル、カルバートボックス）、電気設備更新など

○2015年度中の開通区間

新東名高速道路 浜松いなさ JCT～豊田東 JCT 55km（2016年2月13日開通）

(通期業績)

○営業収益は、12,497億円（前年同期比3,586億円増）となりました。

・料金収入は、6,575億円（同236億円増）でした。これは、2014年4月の料金割引制度の再編に際して、激変緩和のために割引の一部を同年6月まで継続していたことによる減収の反動です。

また、1日あたりの取扱通行台数は191万台（同2.3%増）でした。

・道路資産完成高等は、5,921億円（同3,350億円増）でした。この増加は、新東名高速道路（浜松いなさ JCT～豊田東 JCT）の開通に伴って道路資産完成高を計上したことによるものです。

○営業費用は、12,464億円（同3,533億円増）となりました。

・道路資産賃借料は、4,795億円（同176億円増）でした。

・道路資産完成原価は、5,953億円（同3,358億円増）でした。道路資産完成原価には、高速道路事業の利益剰余金を活用して実施することとした安全性向上に関する事業の費用約40億円が含まれています。なお、当該費用を除き、道路資産完成高及び道路資産完成原価は損益に影響しません。

・管理費用等は、1,715億円（同1億円減）となりました。これは、点検や維持補修など着実な業務執行により維持修繕費用が増加した一方、暖冬により雪氷対策費用が減少したことによるものです。

○上記の結果、営業利益は33億円（同53億円改善）となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○新規サービスエリアの開業

新東名高速道路 NEOPASA（ネオパーサ）岡崎（集約）、長篠設楽原 PA（上下線）

・・・2016年2月13日オープン

○各種イベントの開催・地域との連携

・新東名高速道路 NEOPASA（ネオパーサ）駿河湾沼津（上り線）、東名高速道路 EXPASA（エクスパーサ）足柄（上下線）では、テレビ局や有名キャラクターなどとのタイアップイベントを、中央自動車道 談合坂サービスエリア（上り線）では、WEBサイトと連動した物産展を開催するなど、これまでのイベントとは異なる集客イベントを展開しました。

・地域食材を活かした「SA・PA メニューコンテスト全国大会」の NEXCO 3社共同での初開催や、地元のとれたて野菜の販売や地元商品の品揃えの充実、近隣の方々が参加するイベントの開催等、地域活性化や地域社会との連携強化に努めました。

○テラスゲート土岐の開業

2015年4月に NEXCO 中日本開発(株)において東海環状自動車道 土岐南多治見 IC の隣接地に複合商業施設「テラスゲート土岐」をオープンさせました。

(通期業績)

○営業収益は、506億円（前年同期比34億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○営業費用は、446億円（同38億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○上記の結果、営業利益は59億円（同3億円減）となりました。

以上